

IBM Campaign

バージョン9 リリース 1.1

2015 年 10 月

リリース・ノート

IBM

注記

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、29 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Campaign バージョン 9、リリース 1、モディフィケーション 1 および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM Campaign
Version 9 Release 1.1
October 2015
Release Notes

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

© Copyright IBM Corporation 1998, 2015.

目次

第 1 章 IBM Campaign v9.1.1 システム要件と互換性	1
IBM Campaign の使用の前提条件	1
第 2 章 IBM Campaign 9.1.1 の新機能と変更点	3
第 3 章 IBM Campaign 9.1.1 の修正された問題	9
第 4 章 IBM Campaign 9.1.1 の既知の問題	13
第 5 章 IBM Campaign 9.1.1 の既知の制限	17
第 6 章 IBM Campaign Reports Package	21
第 7 章 IBM Campaign の資料のロードマップ	25
IBM 技術サポートへのお問い合わせ	27
特記事項	29
商標	31

プライバシー・ポリシーおよび利用条件に関する考慮事項	31
--------------------------------------	----

第 1 章 IBM Campaign v9.1.1 システム要件と互換性

IBM® Campaign は、IBM EMM 製品スイートの一部です。Campaign バージョン 9.1.1 には、Marketing Platform 9.1.1 が必要です。Campaign は、バージョン 9.1 から 9.1.1 (eMessage を含む) にアップグレードできます。

完全なシステム要件と互換性情報の保管場所

この製品と互換性がある IBM EMM 製品バージョンのリストおよびこの製品に対するサード・パーティー要件のリストについては、「推奨されるソフトウェア環境と最小システム要件」という文書を参照してください。この資料は、IBM Support Portal Web サイト (<http://support.ibm.com>) の「詳細なシステム要件 (Detailed System Requirements)」の下にあります。

注: Support Portal から IBM EMM 資料にアクセスするには、IBM アカウントでログインする必要があります。このアカウントは、IBM 顧客番号とリンクされている必要があります。アカウントを IBM 顧客番号に関連付ける方法については、Support Portal の「サポート・リソース」 > 「ライセンス付きソフトウェア・サポート」を参照してください。

この資料には、IBM EMM にログインしているときに、「ヘルプ」 > 「製品資料」を選択することでもアクセスできます。

IBM Campaign の使用の前提条件

IBM Campaign の使用を開始する前に、ご使用の環境が次の要件を満たしていることを確認してください。

- ユーザー・エクスペリエンスを向上させるには、最低でも 21 インチのスクリーンを使用します。
- ユーザー・エクスペリエンスを向上させるには、画面解像度を 1600 x 900 に設定します。それより下の解像度では、一部の情報が正常に表示されない場合があります。低い解像度を使用する場合、ブラウザ・ウィンドウを最大化してより多くのコンテンツが表示されるようにしてください。
- ユーザー・インターフェース間をナビゲートするには、マウスが最適です。
- ブラウザーのコントロールを使用してナビゲートしないでください。例えば、「戻る」や「進む」ボタンの使用は避けてください。その代わりに、ユーザー・インターフェースにあるコントロールを使用してください。
- ポップアップ・ブロッカー (広告ブロッカー) のソフトウェアがクライアント・マシンにインストールされている場合、IBM Campaign は正しく機能しないことがあります。最良の結果を出すには、IBM Campaign の実行時にポップアップ・ブロッカー・ソフトウェアを無効にします。
- 技術環境が最小システム要件とサポートされるプラットフォームを満たしていることを確認してください。*
- 適切なブラウザとそのバージョンを使用している必要があります。*

- アップグレードやフィックスパックの適用後に、ブラウザ・キャッシュをクリアしてください。これは、アプリケーションを更新した後の 1 度だけ行う必要があります。
- Internet Explorer (IE) を IBM Campaign や、Campaign フローチャートを使用するいずれかのモジュール (eMessage、Contact Optimization、Interact、Distributed Marketing) と使用する場合: 情報を横並びに表示するために複数回ログインするには、IE を開いて IBM EMM にログインします。そして、IE メニュー・バーで「ファイル」 > 「新規セッション」を選択します。新規 IE ブラウザー・ウィンドウで、IBM EMM に同じユーザーまたは別のユーザーとしてログインします。

重要: これ以外の方法で複数のセッションを開かないでください。例えば、新しいタブを開いたり、「スタート」メニューまたはデスクトップ・アイコンから別のブラウザ・セッションを開いたり、IE の「ファイル」 > 「新規ウィンドウ」を使用したりしないでください。これらの方法を使用すると、アプリケーションに表示される情報が破損する恐れがあります。

*アスタリスクが示される項目の詳細については、「*IBM Enterprise Marketing Management (EMM) Recommended Software Environments and Minimum System Requirements*」を参照してください。

第 2 章 IBM Campaign 9.1.1 の新機能と変更点

IBM Campaign バージョン 9.1.1 には、次の新機能と変更点が含まれます。

IBM Knowledge Center

IBM Knowledge Center ですべての製品資料が利用可能になりました。

<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/>

製品ファミリー内または複数の製品ファミリーにわたって参照または検索を行なって、必要なトピックを探すことができます。単一の製品内を検索するには、目次で製品ファミリーを展開し、製品を選択してから検索語を入力します。検索フィルターをクリアするには、ツールバーの「X」をクリックします。詳しくは、ツールバー右上にある「ヘルプ」アイコンをクリックしてください。

新規および中止されたプラットフォームのサポート

新しくサポートされるプラットフォームと中止されたプラットフォームのリストについては、「推奨されるソフトウェア環境と最小システム要件」という文書を参照してください。

注: DB2 をユーザー・データベースとして使用する場合の新しく追加された z/OS サポートについて詳しくは、「*IBM Campaign インストール・ガイド*」の『*Campaign 用の DB2 on z/OS ユーザー・データ・ソースの準備*』を参照してください。

リスナーのクラスター化とロード・バランシング

IBM Campaign をクラスター化リスナー構成でインストールまたはアップグレードできます。

複数の物理マシンにバックエンドのキャンペーン分析サーバーを実装することで、管理者定義の優先順位と重みの値に基づいたラウンドロビン方式を使用して、自動フェイルオーバーやロード・バランシングが可能になります。

クラスター化では、高可用性とロード・バランシングを目的として複数のリスナーが使用されます。クラスター化リスナーは、1 つのマシンから別のマシンへと、自動的にフェイルオーバーが確実に行われるようにします。さらに、クラスター化リスナーでは、パフォーマンス改善のための並列処理およびロード・バランシングが可能です。

単一リスナー構成に対する変更も実装されました。リスナーの自動再始動、既存の UI とバックエンド・サーバーの実行中セッションの自動再接続と再確立などです。

リスナーのクラスター化について詳しくは、以下の資料を参照してください。

- 「*IBM Campaign インストール・ガイド*」または「*IBM Campaign アップグレード・ガイド*」

• *IBM Campaign 管理者ガイド*

「*IBM Campaign 管理者ガイド*」の以下のトピックには、クラスター化リスナー構成について詳しく説明されています。

章とトピック	説明
第 11 章: トリガー管理 • Campaign トリガー・ユーティリティーの構文とオプション	クラスター化リスナー構成でトリガー・ユーティリティーを使用する方法には、いくつか違いがあります。例えば、unica_actrg をリモートで実行する場合、マスター・リスナーのサーバーとポートを指定するのがベスト・プラクティスです。
第 12 章: ログイン管理 • IBM Campaign ログ・ファイルの名前とロケーション • Campaign リスナー・ログおよびマスター・リスナー・ログの表示と構成	次の場所にあるログ・ファイルに加え: <Campaign_home>/logs <Campaign_home>/partitions/partition[n]/logs クラスター化リスナーには次の場所にもログ・ファイルがあります。 <campaignSharedHome>/logs <campaignSharedHome>/partitions/partition[n]/logs campaignSharedHome は、すべてのクラスター化ノードからアクセス可能なネットワーク・ロケーションです。このロケーションはインストール時に指定され、 CampaignCampaignClustering で構成可能です。 各リスナーは、それぞれ独自のログ・ファイルにイベントを記録します。さらに、masterlistener.log が <campaignSharedHome>/logs にあります。
第 16 章: IBM Campaign リスナー	この章では、クラスター化リスナーと非クラスター化リスナーに関するすべてを網羅した情報が記載されています。この章のすべてのトピックを読むことを強く推奨します。

章とトピック	説明
<p>第 17 章: IBM Campaign ユーティリティー</p> <ul style="list-style-type: none"> • Campaign Server Manager コマンド (unica_svradm) 	<p>一般的に、Campaign ユーティリティーをクラスター化リスナー環境で使用方法は、単一ノード環境で使用する場合と同じです。ただし、注意すべき違いがいくつかあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • クラスター環境でユーティリティーを使用する方法の概要については、第 16 章:「IBM Campaign リスナー」のトピック『クラスター化リスナーのユーティリティー』を参照してください。 • 各ユーティリティーについては、第 17 章:「IBM Campaign ユーティリティー」を参照してください。主な変更点は unica_svradm に対して行われています。 • クラスター化リスナー環境で unica_svradm を実行すると、デフォルトの接続はマスター・リスナーに対して行われます。マスター・リスナーに接続されている場合、Loglevel、Refresh、Shutdown、Status、Version の各コマンドは、クラスター内のすべてのノードに影響します。例えば、Status コマンドは、クラスター内のすべてのノードの状況を表示します。Shutdown コマンドは、リスナー化クラスターを秩序のある方法でシャットダウンします。 • unica_svradm Refresh コマンドが新しく追加されました。これは、マスター・リスナーの構成に変更を加えた後に構成をリフレッシュする場合に使用します。
<p>第 19 章: IBM Campaign の構成プロパティー</p>	<ul style="list-style-type: none"> • CampaignunicaACLlistener: プロパティー serverHost、serverPort、useSSLForPort2、serverPort2 は、クラスター化リスナー構成では無視されます。代わりに、これらのプロパティーは個別のノードごとに設定します。 • CampaignunicaACLlistenerInode [n]: クラスター化構成のリスナーごとに、1 つの下位ノードがあります。 • CampaigncampaignClustering: これらのプロパティーは、クラスター化リスナー構成にのみ関係します。

Web アプリケーションのクラスター化

Campaign と使用するように、クラスター化 Web アプリケーション環境を WebLogic または IBM WebSphere Application Server に作成できます。クラスター化環境は、高可用性とスケーラビリティを実現するのに役立ちます。詳しくは、「IBM Campaign 9.1.1 インストール・ガイド」を参照してください。

unica_aclsnr ユーティリティーの新しいオプション [-d <service_dependencies>]

-d <service_dependencies> は、<service_dependencies> のサービスが完全に開始するのを待機してから Campaign リスナーを起動するように Microsoft Windows オペレーティング・システムに指示するオプションの引数です。これを使用する最も一般的なケースは、IBM Campaign を実行する Web アプリケーション・サーバーがサービスとしてもインストールされている場合です。Web アプリケーション・サーバーは、Campaign リスナーを起動する前に完全に起動して実行している必要があるためです。複数のサービスを指定するには、コンマ区切りのリストを使用します。

Windows サービスで定義されているサービス名を使用します。

フローチャートの注釈

フローチャートを使用する他のユーザーとコミュニケーションを取ったり、プロセスの意図や機能を明確にするために、フローチャートに注釈を付けたりすることができます。注釈は、黄色の付せんメモのように表示されます。注釈を使用すると、ユーザーがフローチャートで行う処理に関する情報を共有することができます。フローチャートで特定の機能を強調表示したり、特定のロジックを使用する理由を強調表示したりする際に使用します。詳しくは、「*IBM Campaign ユーザー・ガイド*」の『フローチャートの注釈付け』を参照してください。

フローチャートのプロセス接続の「先へ移動」と「前に戻る」

「表示」メニューの「オーバーラップ接続」を使用して、プロセス接続（フローチャート内のプロセス間の線）がフローチャートのプロセス・ボックスと重なるか、フローチャート・プロセス・ボックスの後ろに隠すかを指定します。この構成は、フローチャートごとに行い、フローチャート・レベルで持続します。

フローチャートを組み込みモードで開く

前のリリースでは、フローチャートは別個のブラウザー・ウィンドウで開きました。お客様のご意見をお尋ねした結果、多数のお客様は、過去のバージョンのように、フローチャートは Campaign ウィンドウ内に開くことを望んでおられます。そのため、フローチャートを再度組み込むことにしました。別個のウィンドウや非表示のウィンドウはなくなりました。

Campaign レポートの再設計

改良された外観とユーザー・エクスペリエンスの一部として、レポートが再設計されました。この変更により、Campaign のダッシュボードのレポート (Cognos 使用の有無を問わない) とリスト表示のレポートと適合するようになりました。レポートは読みやすく、理解しやすくなりました。色合いが調和し、対話式の整頓されたスタイルになりました。数値表示機能がある円グラフが実装されました。

レコード選択のためのランダム・サンプルの生成

「選択」処理または「サンプル」処理の実行のたびに異なるランダム・レコード・セットが強制的に選択されるように設定するには、「ランダム・シード」にゼロ (0) を入力します。値 0 を指定すると、処理の実行ごとに異なるランダム・レコード・セットが選択されます。これにより、フローチャートの実行ごとに真のランダム・サンプルが生成されます。「セグメント」処理には「ランダム・シード」制御は組み込まれていません。「セグメント」処理の実行ごとに異なるランダム・レコード・セットが選択されるようにするには、入力を行う上流の処理で、「ランダム・シード」を 0 に設定します。

前のリリースでは、ランダム・サンプルでは、処理の後続の実行が行われるたびに毎回同じランダム・レコード・セットが生成されていました (処理の変更に入力する場合は除く)。この動作を引き続き選ぶことも可能で、新しいシード値をランダムに選択するための「ランダム・シード」フィールドの横にある「選択」ボタンをクリックします。これは、プロセスの結果をモデル化の目的に使用する場合は重要で

す。各モデルの実効性を把握するために、同じレコード・セットに対して異なるモデリング・アルゴリズムを比較する必要があるためです。

詳しくは、「*IBM Campaign ユーザーズ・ガイド*」の「レコード選択のためのランダム・シードの変更」を参照してください。

オファーの関連製品のリスト

オファーの関連製品のリストを編集する際のユーザー・インターフェースに小規模な変更が行われました（「**Campaign**」 > 「**オファー**」を選択してオファーを開き、「**照会の編集**」をクリック）。「**製品の選択**」ダイアログの左側にある「**条件の追加**」リストには、誤解を招く恐れのある「AND」ラベルが含まれなくなりました。複数の条件が単一ステップで追加されると、「AND」として結合されます。条件が 1 度ずつ追加されると、「OR」として追加されます。詳しくは、「*IBM Campaign ユーザー・ガイド*」のオファーの関連製品のリストの変更に関する説明を参照してください。

新しい構成プロパティ: `httpCompressionForResponseLength`

`Campaign\partitions\partition1\server\optimization` の下の

`httpCompressionForResponseLength` を使用して、Web アプリケーションからブラウザへの HTTP 応答の圧縮を有効にして構成できます。このプロパティは、HTTP を介して送信されるデータの量を減らすことができるため、ページ・ロードや対話の時間を改善することができます。単位は KB、デフォルト値は 100 です。値 0 の場合、これが使用不可になります。詳しくは、「*IBM Campaign 管理者ガイド*」を参照してください。

新しい構成プロパティ: `cellCodeBulkCreation`

`Campaign\partitions\partition[n]\server\systemCodes` の下の `cellCodeBulkCreation` で値を TRUE に設定すると、セル・コードの一括作成時にセル・コード生成ユーティリティーのパフォーマンスが向上します。また、フローチャート、テンプレート、およびプロセス・ボックスをコピーする際にも、値を TRUE にするとパフォーマンスが向上します。「セグメント」プロセス・ボックス、「サンプル」プロセス・ボックス、「決定」プロセス・ボックス、またはターゲット・セル・スプレッドシートにおいて、セル・コードの生成に長時間かかっているように思う場合は、この値を TRUE に設定してください。デフォルトの設定は FALSE で、既存のカスタマイズ済みの実装をサポートします。オーダーメイドの既存のセル・コード生成ユーティリティーを使用している場合は、新しいカスタム・ユーティリティーを実装するまでの間は、このプロパティを FALSE のままにしておいてください。実装が行われた後、値を TRUE に変更できます。カスタム・セル・コード生成ユーティリティーを使用していない場合は、値を TRUE に変更して、効率を改善してください。

IBM Opportunity Detect との統合

Opportunity Detect が Campaign と統合されると、Opportunity Detect で作成されたカスタマー・トランザクションに関するデータが Campaign フローチャートで使用できるようになります。統合の構成については、「*IBM Campaign 管理者ガイド*」を参照してください。

「セグメント」プロセス・ボックスの改善点

- 「セグメント数」フィールドでは、負の数や小数部などの無効な入力が行われなくなりました。
- パフォーマンスへの影響を防ぐため、「セグメント数」フィールドには 1000 を超える数は入力できなくなりました。
- 前のリリースでは、「セグメント」プロセス・ボックスからすべてのセグメントを削除することが可能でした。最後のセグメントを削除すると、新しいセグメントが作成されていました。新しいリリースでは、最後のセグメントは削除できなくなりました。「照会で作成」が選択され、使用可能なセグメントが 1 つのみの場合、「セグメント」タブの「削除」ボタンは使用不可になります。

プリアップグレード・チェック・ユーティリティー

v9.1.1 にアップグレードする前に、preUpgradeTool ユーティリティーを使用してファイル・システムやデータベースに問題や不整合がないか確認できます。このユーティリティーの実行はオプションですが、推奨されています。詳しくは、「*IBM Campaign* アップグレード・ガイド」を参照してください。

プロセス・ボックスのグリッド・パフォーマンスの改善

すべてのプロセス・ボックスで、各エレメントの追加、削除、更新をループで行う代わりに、挿入/削除/更新を一括方式で実行できるようになり、パフォーマンスが最適化されました。この変更により、グリッド内のデータが大量にある場合にパフォーマンスが改善されます。

システム・テーブルへの変更

新しいシステム・テーブル UA_AnnotationInfo が追加されました。このテーブルには、ユーザーが作成および編集するフローチャート注釈のデータが入ります。新しい注釈が作成されるか更新され、フローチャートが保存されるたびに、このテーブルに 1 行が書き込まれます。各プロセス・ボックスに含めることができる注釈は 1 つまでです。詳しくは、『*IBM Campaign* システム・テーブルのデータ・ディクショナリー』を参照してください。

第 3 章 IBM Campaign9.1.1 の修正された問題

以下の問題は、Campaign 9.1.1 で修正されました。

表 1. Campaign の修正された問題

問題	ID	説明
Campaign 9.1.0.0 におけるセキュリティー・テストで XSS のセキュリティー脆弱性が発見された	171720	セキュリティー脆弱性に対する処置が実施されました。
フローチャートの「セグメント」ボックスで列をクリックしてソートしようとする、セグメントが正しく入れ替わらない	171725	フローチャートの編集時にテンプレート・ライブラリーからテンプレートをインポートし、ソートするために列をクリックし、保存して終了します。「セグメント」プロセス・ボックスに戻ると、セグメントに正しい照会が入っていません。
テーブル・マッピングに一部のテーブルが表示されない	171733	特定のシナリオで、テーブル・マッピング画面に一部のテーブルが表示されませんでした。
実行中のフローチャートの「保存して終了」をクリックすると、「サーバーの通信にいくつかの問題があると思われます」というメッセージが表示される	171738	フローチャートを実行し、その直後に「保存して終了」をクリックすると、このメッセージが表示されました。この問題は、フローチャートのウィンドウが閉じたときに未処理要求があったため起こりました。
「削除」機能の問題により、10404 unica_acsvr 異常終了やその他の問題が発生した	171745	「セグメント」プロセス・ボックスの構成時の特定のシナリオ (例えば、「照会で作成」でセグメントの数を変更する) において、正しくない結果になり、unica_acsvr プロセスが異常終了しました。
フローチャートでプロセスまたは接続を削除した後も、ツールバーが引き続きアクセス可能	171746	フローチャートでプロセスまたは接続を削除した後、ツールバーが引き続きアクセス可能で、「保存」などのボタンをクリックできました。これにより 10024 接続エラーおよび 10025 プロセスが見つからないエラーが発生しました。このようなシナリオでは、ツールバーはアクセス不能 (グレー化) になっています。
セルに手動で入力する場合に、入力セルが保存されない	171756	「セグメント」プロセス・ボックスで入力セルを変更する際、入力セルの名前を手動で変更し、「タブ」を押して「OK」をクリックしたら、新しい入力セルが保存されませんでした。
「セグメント」プロセス・ボックスで、リスト内で「上」ボタンと「下」ボタンを使用してセグメントを移動すると、セグメントの順序が保存されない	172500	「セグメント」プロセス・ボックスで「上」ボタンと「下」ボタンを使用してセグメントを移動すると、セグメントの再配列が保存されませんでした。
unica_svradm ユーティリティの Run コマンドと -s を使用すると、エラー 11107 が返される	172507	同期実行を指定する Run -s コマンドを使用すると、エラー 11107 「サーバー・キャンペーン・コンテキストの内部エラー」が発生しました。フローチャートは実行されますが、外部スケジューラーで使用できませんでした。なぜなら、unica_svradm RUN -s の実行時に、フローチャートが正常に実行されたときに戻るのではなく、エラーで即時に終了したためです。

表 1. Campaign の修正された問題 (続き)

問題	ID	説明
特定のオーディエンス・レベルで履歴テーブルをマップできなかった	174316	特定のシナリオにおいて、特定のオーディエンス・レベルで履歴テーブルをマップすることができず、そのオーディエンス・レベルのコンタクト履歴が書き込まれませんでした。
unica_svradm が 1719 エラーを返すことが頻繁にある	172514	同期モードで unica_svradm を使用して複雑なフローチャートを実行する際、フローチャートは正常に完了するものの、エラーによりダウンストリーム・プロセスを実行できませんでした。エラーは次のとおりです。RUN エラー 1719: 内部エラー: 通信要求がタイムアウトになりました。
「セグメント」タブからセグメントを削除した後に、「セグメント」プロセス・ボックスで「OK」をクリックできない	172515	この問題により、「セグメント」タブからセグメントを削除した後に変更を保存できませんでした。
ドキュメンテーションの問題: 「実行結果の保存」が使用不可の状態です。「CreateSeg」プロセス・ボックスを使用するのは正しくありません。	172516	保存対象とする成果物を作成するフローチャートでは、「Campaign パーティション パーティション[n] サーバー flowchartRun saveRunResults」を「TRUE」に設定する必要があります。例えば、セグメント化プロセスを含むフローチャートがある場合、実行結果を保存しなければなりません。実行結果を保存しないと、戦略的セグメントは永続しません。ドキュメンテーションは更新され、欠落していたこの情報が含まれるようになりました。
「管理」 > 「テーブル」で行ったフィールド名の変更が、「選択」ボックスに表示されません。	133653	「次を含むすべての ID を選択 (Select All IDs with)」を使用して「選択」ボックスで照会を指定するときに、変更されたフィールド名を選択しようとする、「プロファイル」をクリックするときに、「12608: 内部エラー: 無効なフィールド名が指定されました」が表示されません。
名前にスペースが含まれるオーディエンス・レベルの履歴テーブルをマップできない	170465	8.2 から 9.1 にアップグレードした後、名前にスペースが含まれるオーディエンス・レベルについて、履歴テーブルのマップが行われませんでした。例えば、「Billing Account」などの名前です。
9.0 では異なるオーディエンス・レベルのコンタクト履歴の追跡ができない	173451	コンタクト履歴ロギング中 (メール・リストまたはコール・リスト) にオーディエンス・レベルが切り替わったとき、コンタクト・プロセスが構成解除され、再構成できませんでした。この問題は、9.0 にアップグレードした後に、8.6 で作成されたフローチャートを使用すると発生しました。
プロセス・ボックスの「全般」タブのセルを再配列すると、セルが正しくないターゲット・セルに割り当てられることがある	95412	フローチャート・セルが「トップダウン」ターゲット・セルにリンクするプロセス・ボックスにある「全般」タブのセルを再配列し、「保存」をクリックしてからプロセス・ボックスを再オープンすると、フローチャート・セルが異なる TCS セルにリンクされる場合があります。

表 1. Campaign の修正された問題 (続き)

問題	ID	説明
データベース内最適化が有効になっているフローチャートでの 10404 エラー	169951	データベース内最適化が有効になっている場合にフローチャートをグローバル抑制戦略的セグメントで実行すると、エラー 10404 が発生しました。「選択」プロセス・ボックスが「マージ/消去」で使用されていました。
機能ロス: 新しく追加されたオファー・パラメーターが、複数入力セルのメール・リスト・プロセスの 2 回目以降の入力セルで表示されない	170463	異なるオファー・パラメーター値を、複数入力セルのメール・リスト・プロセスの個別の入力セルに割り当てることはできません。最初の入力セルには、「パラメーター」タブにすべてのオファー・パラメーターが表示されますが、2 回目以降の入力セルには、一部のオファー・パラメーターが表示されません。このようなパラメーターがそうした入力セルにある場合、値を割り当てることはできません。
セルごとに編集する際にオファーのパラメーターが欠落している	170464	1 つのオファーを複数の異なるセルに割り当てて、セルごとにオファー・パラメーターを編集しようとする、オファーの一部のパラメーターが欠落します。
9.1.0.2 CampaignReports Pack の acer_tables_upgrade_db2.sql が構文的に正しくない	170590	9.1.0.2 Campaign レポート・バック・インストーラーで、DB2 のアップグレード・スクリプトに構文エラーがありました。
セキュリティ障害 - Campaign 9.1.0.0 における SQL インジェクション	171719	セキュリティ障害に対する処置が実施されました。
「拡張設定」ウィンドウの「選択ルール」ドロップダウンの下にある選択されたユーザー定義フィールドが編集モードで開くはずである。	9055	MORE セクションに追加されたユーザー定義フィールドの詳細を確認するためにボタンをクリックすると、そのユーザー定義フィールドが編集モードで開くはずですが、ユーザー定義フィールドの作成」ウィンドウが開いてしまいます。ユーザーは、ドロップダウンからユーザー定義フィールドを選択できます。
「選択」プロセス・ボックス内でノードの位置が入れ替わる。	7275	選択プロセスでユーザー定義フィールドを選択してから「ユーザー定義フィールド」ダイアログを閉じると、「選択可能なフィールド」のリストで「ユーザー変数」項目と「ユーザー定義フィールド」項目の位置が変更されます。
フローチャート・データの収集機能を実行するとき、サーバーが異常終了することがある。	8019	「フローチャート・データの収集」機能の日付フィールドにテキスト値が入力された場合、サーバー・プロセスが異常終了することがあります。
アクティブなオファーの削除中に、リストで使用されているオファーに関する警告メッセージが 2 回表示される。	36267	「警告: "オファー Offer1" オファーは 1 つまたは複数のオファー・リストで使用されています。このオファーを削除すると、これらのオファー・リストからも自動的に削除されます。続行しますか?」というメッセージが 2 回表示されます。
非常に古い日付を含むオファー・テンプレートにおける、Oracle による日付処理。	65446	非常に古い日付 (214 など) が含まれるオファー・テンプレートを保存できません。指定された値が無効な日時データ型のインスタンスであることを示す例外が発生します。
メール・リストで、カスタム属性に定義した小数点以下の桁数が無視される。	66057	メール・リストでオファー・カスタム属性を使用して、カスタム属性定義に指定した小数点以下の桁数が無視されます。

表 1. Campaign の修正された問題 (続き)

問題	ID	説明
選択プロセス・ボックスが、ディメンション・テーブルに基づいて作成されたカスタム・マクロを使用して構成されている場合に、エラー 11528 で失敗する。	71062	ディメンション・テーブルに基づくカスタム・マクロで、選択プロセスでのエラー 11528 などといったプロセス・エラーが生じることがあります。原因は、カスタム・マクロのベース・テーブル名が、ディメンション・テーブル名とともに、選択されたフィールド名の前に付加されるためです。
メール・リスト・プロセスの「処理」タブで、オファーが最初にターゲット・セルに割り当てられる場合に、コントロール・セルをターゲット・セルに割り当てることが難しくなる。	71065	コントロール・セルのグリッド・セルをクリックしてターゲット・セルを割り当てる際に、ターゲット・セル選択項目が小さな細線になるため、選択しづらくなります。これは、コントロール・セルを、ダイアログ上部にあるターゲット・セルに割り当てられる場合に限り発生します。ダイアログを再度クリックすると、ドロップダウン・リストが表示されます。
「SPSS モデル」プロセス・ボックスが、エラー 18009 で失敗する。	81309	この問題は、レコードが 20 個未満のモデルに限り発生します。
モデル・タイプを予測から関連付けに変更すると、エラーになる。	93877	これは、「データ」タブをクリックした場合にも発生します。データは自動的に走査されるため、SPSS モデル・プロセスの実行時に正しくない結果になります。
オファー名から非 ASCII 文字が切り捨てられる。	93906	これは単なる表示上の問題です。オファー・ページで「 IBM eMessage デジタル資産へのリンク 」をクリックして、関連付けられた資産を表示すると、オファー名から非 ASCII 文字が切り捨てられます。
フローチャートの追加時に JS エラーとなる。	106625	これが発生するのは、Interact がインストールされており、かつ、Internet Explorer 9 および 10 の「インターネット オプション」における「詳細設定」タブの「ブラウズ」セクションでオプション「スクリプト エラーごとに通知を表示する」が有効に設定されている場合のみです。デフォルトでは、このオプションは有効になっていません。
「抽出」プロセス・ボックスの「抽出」タブから開始された「ユーザー定義フィールドの作成」ウィンドウに、マップされたテーブル/ファイル・ノードが表示されない。	106626	回避策: 抽出プロセスの「ソース」タブからユーザー定義フィールドを作成すると、「抽出」タブで使用可能になります。

第 4 章 IBM Campaign 9.1.1 の既知の問題

Campaign 9.1.1 には、次の既知の問題があります。

表 2. Campaign の既知の問題

問題	ID	説明
後続の実行のためにさらにフィールドが追加される場合に、出力をファイルにエクスポートすると列が追加されない	175918	新しい列 (出力フィールド) が「抽出」プロセス・ボックスの既存の出力ファイルに追加されるとき、列のタイトル (フィールド名) はファイルに書き込まれませんが、データは正しく書き込まれます。回避策として、抽出データにさらにフィールドを追加する必要がある場合は、新規出力ファイルを作成します。
エクスポート・ファイルが変更されている場合、 defaultBehaviorWhenOutputToFile を「新規ファイル作成」に設定する操作が機能しない	175825	defaultBehaviorWhenOutputToFile を「新規ファイル作成」に設定する操作は、初めて新規出力ファイルを選択する場合のみ作動します。既存の出力ファイルを変更して新規出力ファイルを選択しようとする、オプション「データ追記」がデフォルトで選択されます。これは、手動で「新規ファイル作成」に変更できます。
「ユーザー変数名」に DBCS 文字を 22 文字入力すると、11532 長さ超過エラーが発生する	176876	「ユーザー変数名」に 21 文字を超える DBCS を入力すると、次のエラー・メッセージが表示されます。11532 長さ超過エラー: 位置 [0] の UserVar でユーザー変数名が 64 文字を超えています
最上位の「セグメント」プロセス・ボックスから抽出されたフィールドが、「選択」プロセス・ボックスの「ユーザー定義フィールド」ウィンドウに表示されない。	177300	「セグメント」プロセス・ボックスからエクスポートされたフィールドが、「選択」プロセス・ボックスの「ユーザー定義フィールド」ウィンドウの「抽出」ノードの下に表示されるはずですが、表示されません。
「セグメント」プロセス・ボックスで、「データ・フィールドで作成」を「照会で作成」に変更した後に、セグメントが正しく入れ替わらない。	177430	この問題は、フィールドが何度も繰り返しソートされた場合にのみ発生します。このアクションを 1 回や 2 回実行しただけでは発生しません。セグメントを上または下に移動し、「照会で作成」と「データ・フィールドで作成」の間で切り替えると、セグメントが正しく入れ替わりません。例えば、セグメント 3 の代わりにセグメント 1 の照会が表示されます。
Resize_Maillist_Parameter_Assign 値: ユーザーがドロップダウン矢印の外側をクリックすると、ドロップダウン・リストが非アクティブ状態に戻らない	147356	この問題は、Internet Explorer でのみ発生します。この問題は、ツリー選択ウィジェットを使用するドロップダウン・リストに影響します。
フランス語で、Cognos レポートが Campaign と一緒に動作しない	164028	特定のユーザーに対して製品の言語を変更するには、アプリケーション・レポート・パッケージの言語に合わせて製品の言語を設定します。製品の言語を設定するには、Cognos Connection を開き、「ユーザー設定」の下で、対応する製品の言語を設定します。コンテンツの言語は変更しないでください。コンテンツの言語を変更する場合は、対応するレポートの XPath も変更する必要があります。

表 2. Campaign の既知の問題 (続き)

問題	ID	説明
Campaign_Install.log の重大ではないエラー	178526	Campaign_Install.log における次のエラーは、無視してかまいません。 Campaign のインストールを中断してから再開すると、次のエラーが記録されます。 「com.unica.install.ia.custom.ManagerReadConfigurationStatus: ERRORAdditional 説明: エラー - class com.unica.install.ia.custom.ManagerReadConfiguration NonfatalInstallException "[xX][mM][IL]" と一致する処理命令ターゲットは許可されません。」
フローチャートの実行時に、エラー「31606: 履歴テーブルが変更されました (31606:History table are changed)」が出されて「メール・リスト」プロセス・ボックスの構成が解除される。	該当なし	1. フローチャートの作成とメール・リスト・プロセスの追加の前に履歴テーブルがマップされる場合は、問題がありません。 2. ステップ 1 に従わない場合でも、エラーが表示された後に履歴テーブルをマップできます。フローチャートを編集し、プロセス・ボックスを構成すれば、プロセスは実行されます。
UNIX のコンソール・モードでインストーラーを実行している際のメッセージ	該当なし	UNIX コンソール・モードでインストーラーを実行している際、インストーラーの .bin ファイルが見つからなかったことを示す通知メッセージが表示されます。このメッセージは無視して構いません。
非 ASCII データのマイグレーション後に、フローチャートを開くことができない	該当なし	非 ASCII データを Campaign 8.6 にマイグレーションした後、ターゲット・システムで Campaign フローチャートを開くことができない場合があります。セッション・フローチャートは正常に開きます。この問題を回避するには、上書きモードでキャンペーンを再度マイグレーションします。これで、フローチャートを開くことができます。
大半のウィンドウでホット・キーが実装されていない	2968	Dojo 実装では、キーボード・ショートカットを使用して一部の機能をアクティブにすることができません。ユーザーはその代わりにボタンをクリックしなければなりません。
「ファイルにエクスポート (Export to File)」にチェック・マークが付いていないとき、メール・リストの「サマリー・ファイル」オプションが無効になっていなければならない。	13460	「メール・リスト」プロセス・ボックスの「実現」タブで「ファイルにエクスポート (Export to File)」オプションがチェックされていないとき、「サマリー・ファイル」オプションが有効になります。しかし、これは有効になるべきではありません。
CH テーブルのフィールド名が変更された際に、UI から DCH をマップする手段が必要。	13502	UA_ContactHistory テーブルの列名を変更した後に、UA_DtlContactHistory テーブルをマップする手段がなければなりません。 UA_DtlContactHistory をマップするには、(ソース・テーブル・フィールドと必須フィールドが一致するように) ソース・テーブルの列名を適宜変更してから、テーブルをマップします。
関連付けられた製品に関する情報が、Marketing Operations でオファーに表示されない	TT DEF062333	関連付けられた製品を伴う Campaign で作成されたオファーが、 Marketing Operations でインポートされる際に、関連付けられた製品に関する情報が Marketing Operations で表示されません。
最初にマップされなかった場合、IBM Digital Analytics 変換テーブルはセグメント・プロセス・ボックスで使用できない。	TT DEF063392	変換テーブルが最初にマップされなかった場合に、変換テーブルまたは他のユーザー・テーブルをセグメント・プロセス・ボックスで使用できません。

表 2. Campaign の既知の問題 (続き)

問題	ID	説明
「前のページに戻る」をクリックすると、UI が崩れる場合がある。	75262	IBM EMM 製品でのナビゲートには製品内のリンクを使用するようにし、ブラウザのコントロールは使用しないでください。
Campaign アップグレード・ログで、Optimize に関連したエラーがログ・ファイル内に表示される。	90944	<p>アップグレード時に次の警告が表示された場合、問題を引き起こすことはないため無視できます。</p> <p>警告 upgradeTool.AC80UpgradeTask [1014] - パラメーターが見つかりません: Affinium Campaign partitions partition1 Optimize DisplayFormat</p> <p>警告 upgradeTool.AC80UpgradeTask [1028] - パラメーターが見つかりません: Affinium Campaign partitions partition1 Optimize AlgorithmTuning ConflictPredictionPercentage</p>
「抽出」プロセス・ボックスに変更を加えていない場合でも、「プロセスの実行結果が失われます。続行しますか?」というメッセージが表示される。	90956	「抽出プロセス構成」ダイアログを開き、何も変更を加えずに「OK」をクリックすると、このメッセージが表示されます。変更を加えていない場合、このメッセージは表示されるべきではありません。
Campaign および Interact のアップグレード・スクリプト。	90970	アップグレード・スクリプトの実行時に、不要なクラス名「com.ibm.net.SocketKeepAliveParameters」が表示されます。機能性に影響はありません。これらのメッセージは、無視して構いません。
Campaign のアップグレード・スクリプトの実行が、drop ステートメントに関連したエラーが出されて完了する。	102958	アップグレード中に、「SQL のアップグレードをすべて正常に実行することはできません。詳細については、ログ・ファイルを確認してください。(Unable to execute all SQL updates successfully, please check the log file for details.)」というメッセージが表示されます。これは、次の drop ステートメントに関連したものです。アップグレード・スクリプトの実行に影響はありません: DROP TABLE UA_OfferSuppression DROP TABLE UA_RespTypeMapping。

第 5 章 IBM Campaign 9.1.1 の既知の制限

Campaign 9.1.1 には、次の既知の制限があります。

表 3. Campaign の既知の制限

問題	ID	説明
Web アプリケーション・クラスタリング制約。	該当なし	Web アプリケーション・クラスタリングは、スタンドアロン Campaign (他の製品と統合されていないもの) においてのみサポートされています。例えば、現在 eMessage、Interact、Contact Optimization、または Marketing Operations を使用している場合、クラスタ化 Web アプリケーション環境を構成しないでください。スティッキー・セッションのみがサポートされています。スケーラビリティを重視した製品であるため、セッション複製は行われません。フェイルオーバーは実装されていません。
フローチャート注釈	該当なし	注釈は、ズームの影響を受けません。注釈のサイズは変更できません。注釈はパン操作領域には表示されません。注釈はフローチャート・ウィンドウの外側に移動する可能性があり、それらにアクセスするには、関連するプロセス・ボックスを注釈の方向に移動してから、注釈をドラッグしてメイン・フローチャート領域に戻し、プロセス・ボックスを元の位置に戻す、という方法しかありません。注釈とプロセス・ボックスが重なり合う場合、注釈を別の位置にドラッグします。
ユーザーの DB の DB2 10.5 BLU: Campaign データ・ソースの一時テーブルに索引付けの要件がない	176377	DB2 10.5 (BLU 機能が ON) では、Campaign で索引付けが必要ありません。Campaign には、データ・ソース用のプロパティがあります。例えば、TempTablePreTruncateRunScript、TempTablePostExecuteSQL、PostTempTableCreateRunScript など、その中で SQL やスクリプトを使用してユーザー・データベース・テーブルに索引を作成できます。DB2 10.5 をカスタマー・データベースとして使用していて、BLU 機能が ON になっている場合、これらの一時テーブル・プロパティを構成する必要はありません。
ダイアログの動作	該当なし	フィールドをアクティブにしたり、フィールド値を変更したりするために 2 回クリックする必要がある場合があります。
未使用の構成プロパティ	該当なし	CampaignMonitoring の monitorEnabledForEmessage 構成プロパティは現在使用されていません。
関連製品に関する制限	該当なし	IBM Marketing Operations からオファー管理を行う際は、製品 ID をオファーに関連付ける「関連製品」機能を使用できません。
メール・リスト・プロセスでのユーザー定義フィールドからの結果が空であるか、または正しくない。これが発生するのは、値が変わる生成フィールド (UCGF) を呼び出すユーザー定義フィールドが使用されるプロセス・ボックスに限られます。	該当なし	メール・リストのユーザー定義フィールドでは、UCGF が定数でない場合に UCGF を使用しないでください。また「パラメーター」タブから、オファー属性にデータを設定するために UCGF を呼び出すユーザー定義フィールドを作成しないでください。 詳しくは、次の技術情報を参照してください。http://g01zciwas018.ahe.pok.ibm.com/support/pcf/preview.wss?host=g01zcidbs003.ahe.pok.ibm.com&db=support/swg/istech.nsf&unid=C4A93DC0ED188D6985257A6B00699C45&taxOC=SSCKNRB&MD=2012/08/31%2015:08:35&sid=

表 3. Campaign の既知の制限 (続き)

問題	ID	説明
Campaign 生成フィールド (UCGF) をプロファイルしても、正しい結果が生成されない。	該当なし	一部の UCGF の値は、セルまたは処理されるオファーに依存します。セル関連の UCGF の場合、プロファイル中は最初のセルに関連付けられた値だけが表示されます。
ターゲット・セル・スプレッドシートを開いたときに、カスタム・セル属性のデフォルト値が表示されない。	該当なし	デフォルト値は、最初表示されませんが、使用されます。TCS で、カスタム・セル属性をクリックするか開いて編集すると、表示したり変更したりすることができます。
制限された文字列を UA_UsrResponseType.Name フィールドに格納できない。	該当なし	UA_UsrResponseType.Name フィールドに、左括弧とそれに続く単一引用符とを含めることができません。
複数のデータ・ソースを同一の物理データベースにマップする場合、データ・ソースごとに固有の TempTablePrefix を使用する。	該当なし	<p>Campaign 内の複数のデータ・ソースを同一の物理データベースにマップし、それらのデータ・ソースのうち 2 つ以上に同じ TempTablePrefix を使用すると、孤立した一時テーブルを削除するためにクリーンアップ・ユーティリティを使用したときに、実際には別の Campaign データ・ソースから定義された適正な一時テーブルであるのに、孤立した一時テーブルであるように間違えて識別してしまう場合があります。</p> <p>削除された一時テーブルがあっても、関係するフローチャートを再実行するとその一時テーブルは自動的に再作成されますが、ベスト・プラクティスとして、複数のデータ・ソースを同一の物理データベースにマップする場合、データ・ソースごとに固有の TempTablePrefix を使用してください。</p> <p>Campaign で定義されるデータ・ソースがデータベース内の別のスキーマにマップされる場合、もう 1 つの解決策は、クリーンアップ・ユーティリティを実行するデータベース・ユーザーが、同じデータベースの別のスキーマのテーブルをドロップする権限を持たないようにすることです。</p>
WebLogic 11g と AIX® 6.1 以上	該当なし	WebLogic 11g と AIX 6.1 以上を組み合わせる場合、WebLogic のクラス・ロードの問題に対処するには手動の回避策を実行する必要があります。この回避策は、Campaign.war ファイルから xercesImpl.jar ファイルを削除して、配置する前に再パッケージすることです。詳細は「Campaign インストール・ガイド」のインストール手順にあります。
いくつかのダイアログ・ボックスをサイズ変更できない	11162	ほとんどのダイアログ・ボックスはサイズ変更できるようになりましたが、一部のダイアログ (多くのデータが含まれていないものや、通常使用されていないもの) はサイズ変更やサイズの最大化を実行できません。
エラー 19024: セグメント・フォルダーからセグメントが削除された場合に、そのフォルダーを削除できない。	17202	フォルダーから削除されたセグメントは、そのフォルダー内で非アクティブなセグメントとして残ります。非アクティブなセグメントを含むフォルダーは、削除できません。これは所定の動作です。

表 3. Campaign の既知の制限 (続き)

問題	ID	説明
同じフローチャートが複数のロケールで編集されている場合、好ましくない動作が引き起こされるおそれがあります。	18991	この状態は、言語設定の異なる複数のユーザーが、同じフローチャートを編集する場合にのみ発生します。ロケールの異なる複数のユーザーは、別のロケールのユーザーによって作成された同じフローチャートを編集するべきではありません。そのようにすると、好ましくない動作が引き起こされるおそれがあるためです。推奨されているのは、言語設定が同じユーザーがフローチャートを作成および編集する方法です。
プロセス・ボックスおよび他のダイアログでのコピー・アンド・ペースト動作	84147	セキュリティ上の理由により、一部のブラウザでは、アプリケーションによるクリップボード経由のコピー・アンド・ペーストが許可されません。この影響を受けるのは、コピー・アンド・ペーストを使用する可能性がある、セグメント・プロセス構成の「全般」タブとアプリケーションの他の領域です。
Campaign ユーティリティ	161323	「 IBM Marketing Platform セキュリティ ログイン 」メソッドが「 Windows 統合ログイン 」または「 Web アクセス制御 」に設定されている場合、キャンペーン・ユーティリティにログインしようとする、「ログインに失敗しました。エラー 10553」というエラーが発生する可能性があります。この問題を回避するため、キャンペーン・ユーティリティを使用する前に、ログイン・タイプを「 LDAP 」または「 IBM Marketing Platform 」に変更してください。
プロセス・ボックスの接続矢印の方向が変わる	201968、 200241	フローチャートで 2 つのプロセス・ボックスを非常に近くに移動させると、接続矢印の向きが変わります。この制限は、矢印のビジュアル表示に影響します。プロセス・データ・フローには影響ありません。これを回避するには、2 つのプロセス・ボックスの距離を離して、矢印が正しい方向を向くようにします。

第 6 章 IBM Campaign Reports Package

Campaign Reports Package は、キャンペーン、オファー、およびセルのパフォーマンスを追跡するために使用できるレポート・スキーマを提供します。Reports Package を使用するには、Campaign が IBM Cognos® と統合されている必要があります。

詳しくは、IBM Marketing Platform に付属の「*IBM EMM Reports* インストールおよび構成ガイド」を参照してください。

IBM Campaign Reports Package には、以下の項目が含まれています。

- インストール時に IBM Marketing Platform に登録されたスキーマ。これらは、製品のレポート・スキーマを表す属性とメトリックを記述したもので、以下のものが含まれています。
 - レポート・スキーマの基礎となる基本スキーマ (カスタム属性なし)
 - Campaign 用に事前構成されたカスタム属性に依存する、大部分の基本スキーマのカスタム・バージョン
 - 新しいスキーマを作成するために使用できるテンプレート
- IBM Cognos BI サーバーに配置される、IBM Cognos のカスタマイズ可能なモデルとレポート
- IBM Cognos モデルとレポートについて説明した参考資料。これらの資料はディレクトリー ReportsPackCampaign¥cognos10¥CampaignDocs にあります。

Campaign レポートは、1 つのデータ・ソース、すなわち Campaign システム・テーブルからデータを取得します。

レポート・スキーマ

以下のレポート・スキーマが用意されています。

- 「キャンペーン・ビュー」では、Campaign システム・テーブルの標準属性ビューを見ることができます (キャンペーン、オファー、セルなど)。
- 「キャンペーン・カスタム属性」は、キャンペーン、オファー、およびセルのカスタム属性に関するレポートを作成するためのものです。
- 「キャンペーン・パフォーマンス」は、全期間またはさまざまな期間 (何日か、何カ月かなど) にわたって、キャンペーン・レベルで開始されるパフォーマンス測定を表示するレポートで使用します。
- 「オファー・パフォーマンス」は、全期間またはさまざまな期間 (何日か、何カ月かなど) にわたって、オファー・レベルで開始されるパフォーマンス測定を表示するレポートで使用します。
- 「キャンペーン・オファー・レスポンスの詳細」は、レスポンス・タイプに基づく、キャンペーンとオファーのレスポンスを示すレポートで使用します。
- 「キャンペーン・オファーのコンタクト・ステータスの内訳」は、コンタクト・ステータスに基づく、キャンペーンとオファーのコンタクトの測定に使用します。

カスタム・スキーマでは、上記にリストされたスキーマの最後の 5 つを拡張して、デフォルト、事前構成済みのレスポンス・タイプ、カスタム属性などを組み込みます。

テンプレート

追加のオーディエンス・レベルがある場合は、それらのために、以下のテンプレートを使用して追加のレポート・スキーマを作成することができます。

- キャンペーン・ビュー
- キャンペーン・カスタム属性
- キャンペーン・パフォーマンス
- オファー・パフォーマンス
- キャンペーン・オファー・レスポンスの詳細
- キャンペーン・オファーのコンタクト・ステータスの内訳

レポート

Reports Package には Cognos サンプル・レポートが入っており、それらのレポートには、キャンペーンまたはオファーの「分析」メニューまたは「分析」タブからアクセスできます。またレポートは、ダッシュボード上のポートレットに表示することも可能です。

以下に示すキャンペーン固有のサンプル・レポートは、キャンペーンの「分析」タブから取得できます。

- キャンペーン詳細オファー・レスポンスの詳細
- オファー別のキャンペーン収支サマリー (実績)
- 月単位のキャンペーン・オファー・パフォーマンス
- セル別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー
- セル別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー (収益を含む)
- オファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー
- セルおよびオファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー
- セルおよびオファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー (収益を含む)

以下に示すオファーのサンプル・レポートは、オファーの「分析」タブから取得できます。

- 「What If」オファー収支サマリー
- 日単位のオファー・パフォーマンス
- キャンペーン別のオファー・パフォーマンス・サマリー

以下に示す、オブジェクト間で共通のサンプル・レポートには、Campaign の複数のオブジェクトに関する情報が含まれています。これらのレポートは、Campaign 分析ページから取得できます。

- 「What If」オファー収支サマリー
- キャンペーン詳細オファー・レスポンスの詳細
- オファー別のキャンペーン収支サマリー (実績)
- 月単位のキャンペーン・オファー・パフォーマンス

- キャンペーン・パフォーマンス比較
- キャンペーン・パフォーマンス比較 (収益を含む)
- イニシアチブ別のキャンペーン・パフォーマンス比較
- セル別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー
- セル別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー (収益を含む)
- セルおよびイニシアチブ別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー
- オファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー
- オファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー (収益を含む)
- セルおよびオファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー
- セルおよびオファー別のキャンペーン・パフォーマンス・サマリー (収益を含む)
- キャンペーン・サマリー
- オファー・キャンペーンのリスト
- 日単位のオファー・パフォーマンス
- オファー・パフォーマンス比較
- オファー・パフォーマンス・メトリック
- キャンペーン別のオファー・パフォーマンス・サマリー

以下に示すキャンペーン固有のサンプル・レポート・ポートレットは、ダッシュボード・ページから取得できます。

- キャンペーン奏効率の比較
- キャンペーン投資収益率の比較
- オファー別のキャンペーン収益比較
- オファー・レスポンスの詳細
- オファー奏効率の比較
- 最終 7 日間のオファー・レスポンス

第 7 章 IBM Campaign の資料のロードマップ

IBM Campaign では、ユーザー、管理者、および開発者向けの資料とヘルプが用意されています。

表 4. 稼働

作業	資料
新機能、既知の問題、および制約について調べる	IBM Campaign リリース・ノート
Campaign システム・テーブルの構造について学習する	IBM Campaign System Tables and Data Dictionary
Campaign をインストールまたはアップグレードする	以下のいずれかのガイドを参照してください。 <ul style="list-style-type: none">IBM Campaign インストール・ガイドIBM Campaign アップグレード・ガイド
Campaign により提供される IBM Cognos レポートを実装する	IBM EMM Reports インストールおよび構成ガイド

表 5. Campaign の構成と使用

作業	資料
<ul style="list-style-type: none">構成およびセキュリティの設定を調整するユーザーのために Campaign を準備するユーティリティーを実行し、メンテナンスを実施する統合について学習する	IBM Campaign 管理者ガイド
<ul style="list-style-type: none">マーケティング・キャンペーンを作成して配置するキャンペーンの結果を分析する	IBM Campaign ユーザー・ガイド
フローチャート・パフォーマンスを改善する	IBM Campaign チューニング・ガイド
Campaign の機能を使用する	IBM EMM IBM のマクロ ユーザー・ガイド

表 6. Campaign と他の製品との統合

作業	資料
eMessage との統合	IBM Campaign インストール・ガイドおよびアップグレード・ガイドでは、ローカル環境で eMessage コンポーネントをインストールして準備する方法について説明しています。「IBM eMessage 起動および管理者ガイド」では、ホスティングされたメッセージング・リソースへの接続方法について説明しています。「IBM Campaign 管理者ガイド」では、オファー統合の構成方法について説明しています。
Digital Analytics との統合	IBM Campaign 管理者ガイド
IBM SPSS® Modeler Advantage Marketing Edition との統合	IBM Campaign および IBM SPSS Modeler Advantage Marketing Edition 統合ガイド
Marketing Operations との統合	IBM Marketing Operations および IBM Campaign 統合ガイド

表 6. Campaign と他の製品との統合 (続き)

作業	資料
Opportunity Detect との統合	IBM Opportunity Detect ユーザー・ガイド
Silverpop Engage との統合	「IBM Campaign および IBM Silverpop Engage 統合ガイド」

表 7. Campaign 用の開発

作業	資料
API を使用してカスタム・プロシーチャーを開発する	<ul style="list-style-type: none"> • IBM Campaign サービス API 仕様 • devkits\CampaignServicesAPI 内の JavaDoc
Campaign に検証を追加するために、Java™ プラグインまたはコマンド・ライン実行可能ファイルを開発する	<ul style="list-style-type: none"> • IBM Campaign 検証 PDK ガイド • devkits\validation 内の JavaDoc

表 8. ヘルプの入手

作業	手順
オンライン・ヘルプを開く	<ol style="list-style-type: none"> 1. コンテキスト・ヘルプ・トピックを開く場合は、「ヘルプ」>「このページのヘルプ」を選択します。 2. ヘルプ全体を表示する場合は、ヘルプ・ウィンドウ内の「ナビゲーションの表示」アイコンをクリックします。
PDF を入手する	<p>以下のいずれかの方法を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Campaign の PDF にアクセスするには、「ヘルプ」>「製品資料」を選択します。 • 入手可能なすべての資料にアクセスするには、「ヘルプ」>「IBM EMM Suite のすべての資料」を選択します。 • IBM EMM インストーラーからは、インストール・プロセス中にすべての資料にアクセスできます。
サポートの利用	<p>http://www.ibm.com/ に移動し、「サポート & ダウンロード」をクリックして IBM サポート・ポータルにアクセスします。</p>

IBM 技術サポートへのお問い合わせ

資料を参照しても解決できない問題が発生した場合は、貴社の指定サポート窓口から IBM 技術サポートにお問い合わせすることができます。問題を効率的に首尾よく確実に解決するには、問い合わせる前に情報を収集してください。

貴社の指定サポート窓口以外の方は、社内の IBM 管理者にお問い合わせください。

収集する情報

IBM 技術サポートに連絡する前に、以下の情報を収集しておいてください。

- 問題の性質についての簡単な説明
- 問題の発生時に表示されるエラー・メッセージの詳細。
- 問題を再現するための詳しい手順。
- 関連するログ・ファイル、セッション・ファイル、構成ファイル、およびデータ・ファイル。
- 「システム情報」の説明に従って入手できる、製品およびシステム環境に関する情報。

システム情報

IBM 技術サポートにお問い合わせいただいた際に、技術サポートではお客様の環境に関する情報をお尋ねすることがあります。

問題が発生してもログインは可能である場合、情報の大部分は「バージョン情報」ページで入手できます。そのページには、ご使用の IBM のアプリケーションに関する情報が表示されます。

「バージョン情報」ページにアクセスするには、「ヘルプ」>「バージョン情報」を選択してください。「バージョン情報」ページにアクセスできない場合は、各アプリケーションのインストール・ディレクトリーの下にある `version.txt` ファイルを表示すると、任意の IBM アプリケーションのバージョン番号を入手することができます。

IBM 技術サポートのお問い合わせ先

IBM 技術サポートへのお問い合わせ方法については、「IBM Product Technical Support」の Web サイト (http://www.ibm.com/support/entry/portal/open_service_request) を参照してください。

注: サポート要求を入力するには、IBM アカウントを使用してログインする必要があります。このアカウントは、できるだけ IBM カスタマー番号にリンク済みのアカウントにしてください。お客様の IBM カスタマー番号とアカウントとの関連付けについて詳しくは、サポート・ポータル「サポート・リソース」>「ライセンス付きソフトウェア・サポート」を参照してください。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
B1WA LKG1
550 King Street
Littleton, MA 01460-1250
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式

においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://www.ibm.com) は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

プライバシー・ポリシーおよび利用条件に関する考慮事項

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品（「ソフトウェア・オファリング」）では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。Cookie とは Web サイトからお客様のブラウザーに送信できるデータで、お客様のコンピューターを識別するタグとしてそのコンピューターに保存されることがあります。多くの場合、これらの Cookie により個人情報が収集されることはありません。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項をご確認ください。

このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッション管理、お客様の利便性の向上、または利用の追跡または機能上の目的のために、それぞれのお客様のユーザー名、およびその他の個人情報を、セッションごとの Cookie および持続的な Cookie を使用して収集する場合があります。これらの Cookie は無効にできますが、その場合、これらを有効にした場合の機能を活用することはできません。

Cookie およびこれに類するテクノロジーによる個人情報の収集は、各国の適用法令等による制限を受けます。この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、個人情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンド・ユーザーへの通知や同意取得の要求も含まれますがそれらには限られません。

お客様は、IBM の使用にあたり、(1) IBM およびお客様のデータ収集と使用に関する方針へのリンクを含む、お客様の Web サイト利用条件（例えば、プライバシー・ポリシー）への明確なリンクを提供すること、(2) IBM がお客様に代わり閲覧者のコンピューターに、Cookie およびクリア GIF または Web ビーコンを配置するこ

とを通知すること、ならびにこれらのテクノロジーの目的について説明すること、および (3) 法律で求められる範囲において、お客様または IBM が Web サイトへの閲覧者の装置に Cookie およびクリア GIF または Web ビーコンを配置する前に、閲覧者から合意を取り付けること、とします。

このような目的での Cookie を含む様々なテクノロジーの使用の詳細については、IBM の『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』
<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/> の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』を参照してください。



Printed in Japan